

オオヤマザクラ *Cerasus sargentii* (Rehder) H.Ohba

バラ科 Rosaceae

1. 分布：北海道から本州、四国、九州までの冷温帯。四国、九州では非常に希である。

2. 利用可能部位：外樹皮（コルク層）

3. 組織形態：

樹皮は内樹皮が厚く、外樹皮（コルク層）も比較的厚い。横断面で見ると機能している二次篩部は最内層のみで、内樹皮の大部分は変形し、押圧されている。再分化した柔組織や厚壁組織などが外方に行くに従い多くなるので、最内層ではっきり見えていた放射組織が内樹皮外方では不明瞭となる。コルク形成層は1層のみあり、これが継続的にコルク組織を作り、結果として厚いコルク層となる。コルク皮層はほとんど認められない。コルク細胞は放射断面で接線方向に扁平な四角形～方形で、ほとんど同じかたちと大きさとで継続して作られ、針葉樹の年輪のような構造は見られないが、細胞内容物とサイズのわずかな違いにより成長輪が認められる。コルク細胞は水平方向に細長く、横断面では短冊形の長方形で、接線断面では紡錘形である。

4. 利用例：樺細工

・

5. 遺跡出土遺物：

オオヤマザクラと樹種を特定した出土遺物は無い。サクラ属の樹皮とされたものは比較的多数ある：飾り弓、儀仗などの樹皮巻き。カゴ編物、手箕などの編組製品。曲物、折敷などの綴じ紐。漆塗り樹皮製品（用途不明品）。



A



C



D

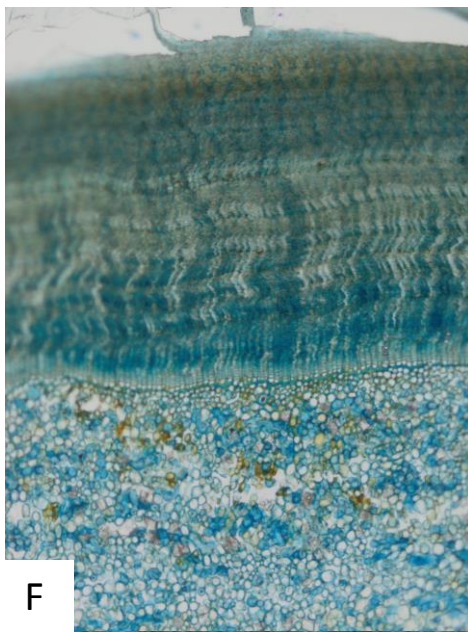


B

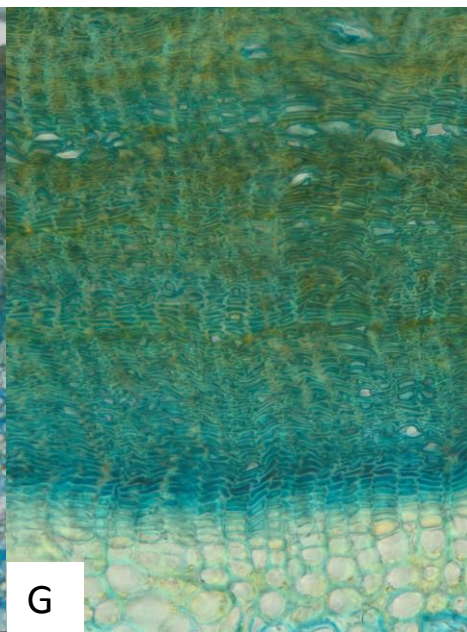


E

A:比較的若いオオヤマザクラの樹肌。B:外樹皮(コルク層)剥ぎ取り。C: 低倍率のオオヤマザクラの樹皮横断面。最下部に二次木部と形成層があり、最上部の黒色部分が外樹皮(コルク層)、両者の間が内樹皮で大部分を占める。D:低倍率の放射断面(下が樹芯方向)。Cと同じく最下部が二次木部と形成層、最上部の黒色部分が外樹皮(コルク層)、両者の間が内樹皮。E:コルク層の接線断面(左右が水平方向)。細長い紡錘形のコルク細胞が密に配列する。



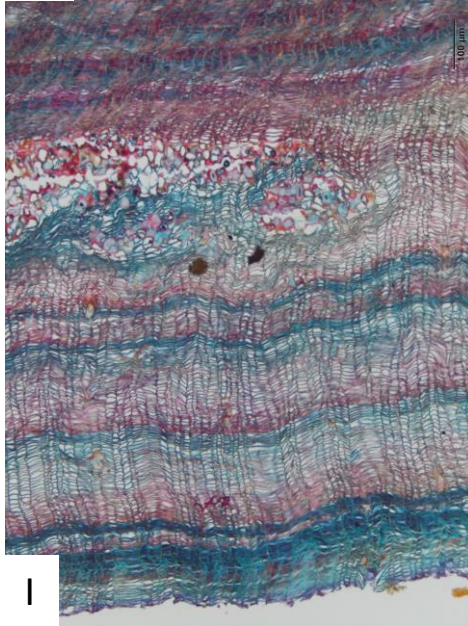
F



G



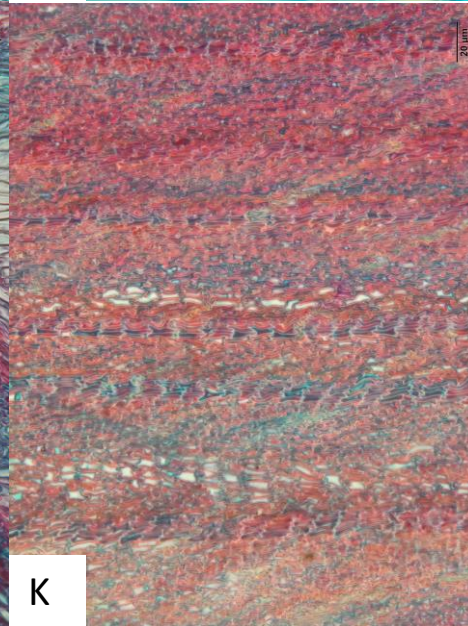
H



I



J



K

F:内樹皮最外部と外樹皮の放射断面。外樹皮には成長輪が見られる。G:コルク形成層付近とコルク層の放射断面の拡大。H:コルク層の横断面。細胞は水平方向(この画面では左右方向)に細長い短冊形。I:別個体のオオヤマザクラの外樹皮の放射断面。成長輪が明瞭である。J:コルク細胞があまり潰れていない部分の放射断面の拡大。K: コルク細胞が激しく潰れている部分の放射断面の拡大。